

「リビングリテラシー向上プログラム推進事業」の概要

■経緯

＜住教育の課題＞ 生活の基本である衣食住のうち、学校の家庭科等の内容は衣食が中心であり、住に関する教育は積極的に実施されていない状況です。また、使用されている教材についても、本県の住環境の特性が十分に反映されたものになっていません。

＜一般生活の課題＞ ①耐震化の敬遠、②自治会活動への無関心、③新築や持ち家志向、④空き家問題等、ライフスタイルに応じた住宅や住まい方を選択する能力が不足していることによる弊害が表れています。

＜県計画への位置付け＞ 青森県住生活基本計画（平成29年3月改定）に、「ライフスタイルに応じた住生活を実現するリビングリテラシーの醸成」を目標の一つとして位置付けています。

＜事業化＞ 平成29～30年度の県重点事業として、県民一人ひとりが将来にわたりより良い住まいと住環境で暮らしていくため、学校における住教育や県民に対する情報提供等を実施し、県民のリビングリテラシーを向上させることにより、青森県の未来をつくる人財を育成し、豊かな住生活の実現及び安全安心な住環境の形成を図ることを目的として、リビングリテラシー向上プログラム推進事業を実施しています。

■事業概要

＜1 樹幹形成＞

○検討委員会の設置： 大学、高専及び研究機関等で構成する「青森県住教育学習指針等検討委員会」において、住教育学習内容、住教育副読本編集方針、出前授業実施内容等について検討

○ワーキンググループ（WG）の設置： 教育庁及び総合学校教育センター等教育部局、小中学校及び高等学校の家庭科担当教員で構成する「住教育検討WG」において、学校での住教育の実施内容等について調査、検討

○指針の策定： 検討委員会及びWGにおける検討を経て、平成30年3月「青森県住まい・住環境学習指針」を策定

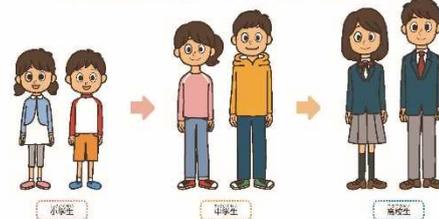
＜2 巣立ちプログラム＞

○住教育副読本の作成： 検討委員会の方針や意見を踏まえながら、住教育検討WGにおいて内容を検討、平成31年3月までに製本、県内各学校に配布する予定

【特徴①】小学校・中学校・高等学校編を合冊

第1章 住まいや住まい方（小学校編）	2
① 住まいのおもな働き	2
② 住まい方の工夫	
(1) 暖かい住まい方	4
(2) すずしい住まい方	8
③ 住まい方のルールとマナー	10
第2章 住居の機能と安全な住まい方（中学校編）	12
① 住まいの役割	12
② 家族の生活と住まいのかかわり	14
③ 快適で安全な住まい	16
④ 安全を考えた住まい方	18
第3章 住居と家族の生活（高等学校編）	20
① ライフステージに応じた住居の選択	20
② 安全で環境に配慮した住生活	22
③ 家族の生活と住居の計画	23
第4章 私たちがつくる地域社会とのかかわり（高等学校編）	24
① 共生の視点から見いだす地域の住まいの課題	24
② 地域の課題と解決提案	25

アオイさんとモリトくんは、小学生から中学生、高校生へと成長します。



【特徴②】本県の気候や風土、住宅の特徴を反映

住宅で結露が起こったら

窓ガラスの内側などがくもったり、水滴がついたりすることがあります。これを結露といいます。結露は、比較的高温の空気（暖かい空気）が、冷たい表面に接して発生するもので、寒い時期に多く発生します。結露が発生すると、壁の表面がよごれたり、カビが生えたりすることもあります。結露を防ぐためには換気をし、湿度をなくすことが大切です。



結露 寒い時期に多く発生する。

結露が起きそうな場所を探してみよう

家の中を視察して、結露が起きそうな場所を探し、7ページのイラストに○をつけてみよう。



【特徴③】ワークシートとしても活用可能

③ 快適で安全な住まい

★5★ 家庭内の事故を防ぎ、安全で快適な住空間の考え方について理解しよう。

快適な住まいの条件について考えよう

小学校で学んだことをもとに、衛生的で快適な住まいの条件をあげてみよう。

健康や快適さには、どんな要素が影響するのかな。

空気の汚れ・

湿度

家にすき間があるとどのような影響が出るだろう。

ダウンドラフト（窓の冷気漏）

室内で溜まった空気が、地面で冷やされると下向きに冷たい空気が流れがらまれます。これをダウンドラフトといいますが、おきま風がない機密のよい住まいでも、窓の断熱性能がよくないとダウンドラフトが起り、寒さを感じてしまうことがあります。

【高等学校】「ライフステージに応じた住まい」



協力企業：蟻塚学建築設計事務所

<3止まり木プログラム>

○県民向けリーフレットの作成

青森県での住生活に必要な基礎知識について理解を深めるリーフレットを作成（予定）

○県民向け学習機会の内容検討

様々な世代の県民の方々が住生活に対する意識の向上や理解の増進を図るための学習機会（住生活学習イベント）を検討

■今後の展開（予定）

これまでの取組を活かし、①さらなる住教育の充実、②継続のための体制づくり、③県全体への波及を図るため、「リビングリテラシー波及促進事業」を進めていきます。（31年度から2か年）

○住生活出前授業の実施・プログラムの充実

これまでの試行プログラムを実施するとともに、協力団体・企業を増やし、新たなプログラムの作成すること等により、出前授業の充実を図ります。

想定テーマ： 居住環境（明るさ・温度・音等の測定機器使用）、住宅の維持管理・耐震・省エネ、防災、健康、まちづくり、住み替え、住宅ローン

○住教育副読本を活用するための取組

青森県住まい・住まい方読本を補足する情報提供等のため、県のホームページに住教育支援サイトを開設します。

○住生活学習イベント

1年目は、楽しい団らんのための空間づくりや住まいの安全と清潔などをテーマに「親子で学ぶ住まいの教室」を開催します。

■ご意見・ご要望 連絡先

青森県県土整備部建築住宅課住宅企画グループ
E-mail: kenju@pref.aomori.lg.jp
Tel: 017-734-9695/Fax: 017-734-8197

○住生活出前授業の試行： 住教育検討WGにおいて、家庭科教員による研究授業や実際の授業で出前授業を試行

【小学校】「そうじの仕方を考えよう」

【中学校】「家庭内の空気汚染を減らそう」



協力企業：東洋建物管理(株)

【高等学校】「自分にあった住まいの選び方」



協力団体：青森県宅地建物取引業協会

リビングリテラシーの向上に意識を向けましょう！